

平成30年度第4回ごみ減量化・資源化推進検討委員会 議事要旨

日時 平成31年2月7日(木) 13時30分～15時45分

場所 田川市役所別館1階 A会議室

1. 開会

2. 議題

議題(1) 地元説明会(資源拠点回収事業)について(資料1、参考資料1)

(事務局)

【資料1：地元説明会(資源拠点回収事業)について

参考資料1：地元説明会資料 により説明】

(会長)

ご意見、ご質問ありましたらお願いします。

(委員)

住民説明会の約1ヶ月前に広報誌に案内が入っていたが、市民の方に周知できていなかったと思う。私は鎮西校区の住民説明会に参加したが参加者は24人と少なく感じられた。限られた時間で3つの事業を説明することは大変だと思うが、そのほとんどが浄化槽整備事業に重点がおかれていて、資源拠点回収事業に真剣に取り組んでいるのかなと感じられるものだった。隣に座っていた高齢の男性は、事務局から質問の有無を聞かれた時に良く分からないので質問ができない、車が無いのにどうして良いのか分からない、と言っていた。この説明会を行うことを、もっと市民に周知する方法があったのではないか。せめて組長には出席して頂くべきではないか。説明会后、近所の人にこのことについて話をしたが知らない人が多かった。市民にとってとても身近な大切な問題なのに、人が集まっていないというのは、住民説明会の意味があったのかなと思った。また、「6その他」に地元からの要望に基づき、公民館ごとに説明会を開催予定とあるが、要望がないと開催しないのか。

(事務局)

周知方法については、区長会理事会で話をした。各校区にある活性化協議会と日程を調整し可能な限り周知をお願いした。市全体の周知のやり方としては、環境対策課に

は3つの係がある。それぞれ新年度から新たな事業があったので3つ同時に行った。資源拠点回収については様々な意見を頂いている。先進地である直方市では、根付くまでには10年くらいかかるとアドバイスを頂いている。今後も地元に入っていこうと考えている。現時点で、4月までに公民館を5箇所まわる予定である。ごみの減量化は時間を掛けながらやって行きたい。

(委員)

私は田川小学校の説明会に参加したが、市の職員の説明が、説明内容を分かっていないまま説明しているように見えた。聞いている市民にとっては、もっと分からなかった。説明するならばもう少し勉強して説明してほしい。浄化槽の説明の方は上手だった。段ボールコンポストの購入先も答えられず時間の無駄だった。

(事務局)

今後の反省点として考えていく。職員の説明力が全員合格点に達しているとは思っていない。今回の説明会だけで終わるのではなく、毎年実施するつもりでいる。段ボールコンポストの購入先は事前に調べていたが、個人商店の名前を出すのは良くないという意見もあり、内部で意思疎通できていなかった。

(委員)

資源ごみ拠点回収事業の説明会についてだが、説明会の時は燃えないごみの回収の選択肢が1つ増えたということだけが、強調されており、資源ごみの回収に力を入れて取り組んでいく、というふうには聞こえなかった。車がない人は来なくていいと言っているようにも聞こえた。今後、場所についてもたくさん苦情が来ると思う。もう少し市民が協力しようという気持ちになるような形にもって行って欲しい。

(事務局)

将来的には資源拠点回収の箇所を徐々に増やしたいと思っている。直方市や飯塚市もこの方式でしているが、各地区によって温度差があり、良い地区はきちんと分別しているが、悪い地区はごみ箱状態で放火があったこともあると聞いている。本紙でまず市民の方に資源拠点回収を知って頂いて、その後に各校区内に入っていく方法が良いとアドバイスを頂いたのでこういう方法をとっている。

(会長)

地域によって温度差というか意識差がある。さらにレベルを上げていく方法でお願いします。

(委員)

全体の参加人数180人は人口に対してどのくらいなのか数値化したものを記載して欲しい。今後の資料も数値化した資料を提供して欲しい。

(会長)

今回区長会及び校区活性化協議会に対し依頼をする方法だったため、一般市民に幅広く周知はできていないと思う。今後反省を元に、頑張ってもらいたい。

(委員)

大浦校区は、参加者7人のうち5人が区長だった。一般の方はまだ無関心だと思う。広報で2ヶ月に1回、ごみ問題について発信していくべきだと思う。

(委員)

以前市役所の市民課に各校区の人数を聞いたら、良く分からないと言われた。小学校9校区の各人数を教えて欲しい。

(事務局)

確認をする。

(委員)

区に入っていない若い方にどういうふうに、周知するかが問題だと思う。区長会は高齢な方が多い。広報等にごみ減量化委員会を設置し、どのような活動をしているかを掲載し、周知するべきだと思う。また、説明会では拠点回収施設について、ごみを捨てる選択肢がひとつ増えただけですよ、と言っているのを聞いてがっかりした。

(事務局)

資源拠点回収が選択肢のひとつと説明したのは、かなり分別が細かく初めは難しく強制的に持って来てくださとは言えないので、買い物ついでに気軽に寄って頂きたいとの思いもあり選択肢のひとつという言葉を使った。直方市も便利の良い市街地にある訳ではない。

(委員)

付け加えだが、選択肢がひとつ増えたという表現は良いと思った。手間は掛かるが、ごみ袋費用はかからないという事をもう少しうまく説明できたら良いと思った。

議題(2) 食品ロス実態調査結果概要について（資料2）について

(事務局)

【資料2：食品ロス実態調査結果概要 により説明】

(会長)

少しサンプルに偏りがある。平均年齢も60歳と37歳と分かれている。

表の下の「※」について、スーパー、コンビニ、飲食店等の店舗は「産業地域」ではなく「商業地域」の方がイメージに合うと思う。「産業地域」では工場のイメージがあるかなと思う。

(事務局)

特段、地区名にこだわりはない。商業地域のほうが適切だという意見に基づき今後修正する。

(会長)

地域の家族構成と構成年齢が非常に影響を受けている印象があるが他に意見はあるか。

(委員)

食品廃棄物削減の取り組み（案）のところだが、その後の処理としてコンポスト等の取組も記載して欲しい。また、消費期限と賞味期限の違いが良く分かっていないと思う。賞味期限が切れても食べられるというアピールが必要。直接廃棄のところでは高齢者は自分で調理するのではなく、若い人が高齢者に食べ物を持って行っているのではないか。その食べ残しが多いのではないだろうか。最も多かったと記載するのは良いが、なぜ多いのかという推測も入れると良いのではないか。

(委員)

食品ロスの裏に貧困の子供がいる。市が中心になって貧困の子供に持って行くと良いと思う。市の働きかけで、食品ロスが減ると思う。以前、恵まれない子供の補助金として10万円ついたら聞いたが、広報等で呼び掛けると良いと思う。呼び掛けだけでも何もしないより良い。ごみ減量化と合わせてやっていくべきだと思う。

(委員)

親が子供に朝ごはんを食べさせない家庭もあると聞いた。

(委員)

子供自身が賞味期限切れを私達に食べさせてと知られても困るが。

(委員)

今回の調査での戸建住宅は比較的年齢が若い。しかし、私の周りの戸建の方は高齢者が多く、こんなにごみは出ないと思う。戸建でも、いろんな世帯があり、一概に言えない気もする。

(委員)

山村地域でも食べないで捨てており驚いた。山村地域は高齢者のイメージがあり、食べ物を無駄にしないと思うが。

(委員)

山村地域でも平均年齢は57歳で若い。実家が農家だが、こんなに無駄にごみを出さない。食べ物に対して大事に考えていると思う。

(事務局)

あくまで今回1回だけの調査であり、ごみの採取も出来るだけ偏りがないようにするようにした。今回の結果がその地区全ての調査結果ではないと考えている。

(委員)

業者が一番食品ロスが多いと思うので飲食店を対象にすべき。

(事務局)

今回、補助事業の中でやっているのも店舗を対象にするのは難しかった。店舗にはポスター、チラシ、コースター等の啓発物を配布している。飲食店は利益を求められる為、ロスを減らすのが難しい場合もある。

議題(3) 段ボールコンポスト補助金の概要について（資料3、参考資料2）

(事務局)

【資料3：段ボールコンポストの補助金の概要

参考資料2：段ボールコンポスト補助金の広報掲載記事 により説明】

(会長)

ご意見ありますか。

(委員)

段ボールコンポストセットに何が入っているのか記載しないと内容が分からない。ピートモスともみ殻くん炭は別々に買うと量が多い。何回か続けて使う方は良いが、1回始めて使うという人には、ダンボールコンポストセットにしてはどうかと思う。

(委員)

宇部市に視察に行ったが、この広報の書き方として、市の職員は自分で作っていないから、ひとつも見えてくるものがない。補助金の値段は根拠があるのか。視察先の市の職員の方は実際に自分で作っていたから、言葉に説得力があった。セット1, 000円と記載しているが、田川市のナフコ、コメリで売っていない。宅配の送料も高い。ごみに問題意識を持っている人は良いが、普通の人には可燃ごみに出したほうが良いと思うのではないか。

(委員)

段ボールコンポストはどこで売っているのか。また、販売業務を提携したり、どこに行ったら売っているか複数の店を紹介すべき。ホームセンターに行ってもなかった。

(委員)

結構煩わしいので段ボールコンポストを始める人が居ないと思う。田川市で段ボールコンポストを準備して希望者に無償で提供して広めていくべき。

(委員)

初めは段ボールコンポストを無償化にして広めるべき。結果ごみ減量化に繋がる。先の話になるだろうが私達が資源拠点回収施設に月1回、2回くらい出向いて段ボールコンポストの相談を受付けたりするようにしないと広まらないのではないか。

(委員)

段ボールコンポストをはじめた後のケアが必要だと思う。

(委員)

値段ばかり記載して、1回のピートモスともみ殻くん炭の割合や生ごみの量を書いていない。段ボールコンポストを始めると生ごみを入れすぎて虫が湧いたり、少なすぎると温度が上らない。一番肝心な事が記載されていない。

(委員)

段ボールコンポストマニュアル(案)の中で、⑤、⑥は要らないと記載あるが、スコップは混ぜないといけないので必須である。もう1回作り直すと思うが、利点だけでなく、デメリットも記入すべき。かき混ぜないと腐ってしまう事など。文章的におかしい所もある。

(事務局)

資料の3だが、無償で配布する件は予算の関係もあるので、委員さんの意見として検

討したい。

議題(4) 段ボールコンポストのマニュアルについて (資料4)

(事務局)

【資料4：段ボールコンポストのマニュアル により説明】

(会長)

マニュアルについて意見はありますか。

(会長)

議題3、議題4をまとめた所で、ゴミ袋を購入するのは1枚50円くらい、コンポストは1,000円くらい。地域の人々が段ボールコンポストを選ぶ価値観があるのか。もう少し丁寧な説明が必要ではないか。段ボールコンポストを広めていけるようやって頂きたい。

(委員)

今後の取組み(案)6、本委員会でモニターをして頂き、とあるが、私達はどこまでを受けてするのか記載がない。

(委員)

以前も言ったが段ボールコンポストとゴミ袋代金を比較した価格を出して欲しい。数字を示すと、始めやすい。レジ袋の有料化による、マイバッグの持参も同じ。

(委員)

委員の3人は年間のごみ袋代と段ボールコンポストの費用がどれだけ違うか分かりますか。

(委員)

私は段ボールコンポストを2回し終わったが、あまり金銭的な事は気にしていない。スーパーにエコバックを持って行く事もレジ袋代3円が惜しいのではなく、ゴミを減らしたいという考えで行っている。そういう主婦は多いと思う。

(委員)

私は普段小の袋を週1出すか出さないか。

(委員)

私は2週間に1回である。

(委員)

私は可燃の大を2, 3週間に1回出す。市民に訴えたとしたら、生ごみが減るとごみ出しの時に軽い。臭いも少ないということ。

(委員)

委員は意識が高いが、一般の方はそこまで高くない。

(会長)

田川市で収集しているごみの中で、袋にすると何割削減されるのか見える形で示すという事ですね。

(委員)

広報等にごみ減量化委員会のことを取り上げて頂いて、田川市はごみの問題に取り組んでいる、努力している、という事を主張するべきだと思う。

議題(5) 環境学習(案)について(資料5)

(事務局)

【資料5：環境学習(案) により説明】

(会長)

ご意見ありますか

(委員)

ペットボトルのキャップリサイクルは今何校行っているのか。

(事務局)

実際にキャップのリサイクルを行っている学校は2,3校です。

(委員)

ペットボトルキャップリサイクルは後藤寺小で見たが、こういうのはすぐに出来る事だと思う。出来たら、市内全校で行うべきだと思う。

(事務局)

環境学習全般について、平成30年夏に市内の小学校に聞き取りに行った。ペットボトルキャップのリサイクルについて数年前に田川市から呼び掛け、現在実際に学校で実施されているか先生に確認したが、回収ボックスがあるのは知っているが、置かれているだけで実際に回収出来ていないということだった。先生の中にはそういう取り組みを行っている事自体知らない方も居た。異動で先生が変わるので、うまく引継ぎが

出来ていない印象だった。今後、市も支援しながらリサイクルに取り組んで行きたい。

(委員)

市内全体での取組みなので、先生が異動しても大丈夫だと思う。

(事務局)

市としては学校に呼び掛けるが、最終的には各学校の校長先生の判断になると思う。

あとは現場の先生がきちんと引継ぎが出来るように、市として出来るだけ支援していきたい。

(会長)

他に意見ありますか。

(委員)

各学校の3・5年生全員に会って環境副読本を渡しているということか。

(事務局)

学校に配布している。出来るだけ環境副読本を活用して欲しいが、先生によって活用できている学校と出来ていない学校があった。現在小学校4年生の授業でごみの内容が出てくる。

この環境副読本は全国どこでも使えるようにと出版社が作ったものになる。先生からの意見として田川市のごみの現状がどうなのか分からないので、そういった資料を市から提供できればと思っている。

(委員)

昨年鎮西小学校で環境学習があって、とても良かったと聞いた。環境学習は継続した方が良くと思う。

(事務局)

生ごみを使った堆肥作りと畑で野菜作りをした事だと思う。

3. 閉会

(会長)

次回の委員会は来年度の5月を予定しています。